

第5回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会

1. 日 時 令和7年8月22日午後6時30分～午後7時49分（1時間19分）

1. 場 所 調布市教育会館 301研修室

1. 出席委員	委員長	阿部 光
	副委員長	徳永 孝正
	委員	阿部 隆行
	委員	梶山 剛史
	委員	横山 公一
	委員	川端 宏志
	委員	門脇 義徳
	委員	大島 直人
	委員	葦澤 加代子
	委員	藤堂 文子
	委員	奥山 尚
	委員	三井 豊
	委員	泉 健一郎
	委員	深沢 典充
	委員	松谷 知彦
	委員	山岸 義大
	委員	村岡 佳太

1. 事務局出席者	門田 英朗
	高木 克将
	岩田 歩
	吉野 秀郷
	石戸谷 寛
	笹本 知貴

1 開会

○阿部委員長 皆さん、こんばんは。定刻前ですけれども、皆さん、おそろいだということですので、ただいまより第5回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を開催いたします。

本日、また議事進行しております教育部の阿部です。よろしくお願いいたします。

この暑い中、皆さん、本日はありがとうございます。これだけの猛暑というのはなかなか経験したことがないという中で、本当に今回、外でやる部活動は大丈夫なのかということで、すごく心配なところではあるのですけれども、これから部活動について本日議論していただきたいのですが、前回の会議から既にかかなりの日数がたってしまって、皆さん、今までどういった内容を議論してきたかということについても若干記憶が薄れている部分もあるかと思うわけですが、昨年、皆さん、御承知のとおり、こちらの推進計画をつくりました。これをつくるに当たって、実際にはいろいろなトライアルをやりながら、いろいろなアンケート調査等もやりながら、こういった推進計画をつくったわけですが、今年度については今回1回目ということですので、前年度までの内容を振り返りつつ、今年度、どういった内容をやるかというのが本日の議題ということになります。

後ほど事務局から御説明させていただきますが、調布市が目指す部活動の改革、あとは調布モデル。昨年からずっと調布モデルというのはどういうことなんだというような議論も結構あったわけですが、調布モデルの方向性と今後の検討課題。あとは、今年度、実際にどういったものをトライアルしていくのかといったところの内容について、皆さんと情報をしっかりと共有した中で進めていければと思っているところであります。また後ほど、事務局からしっかりした説明があると思いますので、よろしくお願いいたします。

2 検討委員会委員について

○阿部委員長 それでは早速、2の検討委員会委員について、次第に沿って進めてまいりたいと思います。(1)検討委員会設置要綱については資料1のとおりであります。今回、委員名簿がついていると思いますが、今年度から新たに委員になられた方もいらっしゃると思いますので、ここで簡単に、それぞれ委員の自己紹介ということで、所属、名前くらいで結構ですので、皆さんに一言ずつ自己紹介をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、私の隣、三井課長。

○三井委員 皆さん、こんばんは。指導室学校教育担当課長を務めます三井と申します。引き続きになりますが、よろしくお願いします。

○奥山委員 皆さん、こんばんは。私、教育総務課施設担当課長の奥山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○泉委員 こんばんは。社会教育課長の泉と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

○徳永委員 こんばんは。生活文化スポーツ部長の徳永でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○深沢委員 こんばんは。同じく生活文化スポーツ部次長の深沢と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○松谷委員 こんばんは。4月から文化生涯学習課長になりました松谷と申します。渡辺の後任であります。どうかよろしくお願いいたします。

○山岸委員 こんばんは。スポーツ振興課長の山岸と申します。昨年に引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

○村岡委員 こんばんは。企画経営課長の村岡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○藤堂委員 調布市文化・コミュニティ振興財団企画課長の藤堂と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○菰澤委員 S H C 倶楽部副会長の菰澤加代子でございます。よろしくお願いいたします。

○大島委員 皆さん、こんばんは。調布市スポーツ推進委員会会長の大島です。私、昨年4月から会長に就任いたしまして、前任の清水から引き継ぎまして今回から参加させていただきます。よろしくお願いします。

○門脇委員 スポーツ協会事務局長の門脇です。よろしくお願いします。

○川端委員 調布市公立学校PTA連合会会長の川端です。どうぞよろしくお願いいたします。

○横山委員 小学校長会を代表してまいりました布田小、横山です。よろしくお願いいたします。

○梶山委員 調布中学校の梶山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○阿部委員 こんばんは。玉川大学教育学部の阿部と申します。よろしくお願いします。

○阿部委員長 済みません、事務局の方から順番にお願いします。

○事務局（石戸谷） 文化生涯学習課の石戸谷と申します。よろしくお願いします。

○事務局（吉野） スポーツ振興課の吉野です。よろしくお願いします。

○事務局（門田） 教育委員会指導室の門田です。よろしくお願いいたします。

○事務局（笹本） 同じく指導室の笹本です。よろしくお願いいたします。

○事務局（岩田） 同じく指導室指導主事の岩田です。よろしくお願いします。

○事務局（高木） 同じく指導室指導主事の高木でございます。よろしくお願いいたします。

○阿部委員長 本日、指導室長の小林委員につきましては欠席しておりますので、御承知おきいただければと思います。

今年度、このメンバーでやってまいりますので、1年間、よろしくお願いいたしますと思っています。

3 事務局説明

○阿部委員長 それでは早速ですが、先ほど私からもお話ししましたが、今回、事務局の説明の内容がかなり多く、資料3が重要となりますので、そこら辺を中心に、また皆さんにしっかりととらえていただいて、御意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から、次第に沿って説明をお願いいたします。

○事務局（高木） それでは、よろしくお願いいたします。お手元の資料3の4ページ目、スライド4をお願いいたします。

昨年度までの議論の内容の振り返りをさせていただきます。昨年度は、この検討委員会において議論し、推進計画を策定し、市の取組の方向性を具体化してきました。また、トライアル事業を通して、子どものニーズや運営に係る課題、ステークホルダー間の連携などについて検証しました。具体的には、トップスポーツチームとの連携ということで、合同部活動を実施している一部のサッカー部と軟式野球部において、F C 東京及び読売巨人軍から競技力向上に資する指導、既存の部活動にない種目による地域クラブ活動モデル事業ということで、マルチスポーツやスポーツクライミング。文科系の取組としては、調布囲碁連盟の協力の下、平日の部活動に指導員を派遣した生徒への指導。これらのことをトライアル事業として実施いたしました。また、これらの取組と並行して、他自治体の視察

を行い、先行事例を研究してまいりました。

続いて、スライド5をお願いいたします。昨年度、策定しました推進計画の内容です。目指す将来像として、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」。調布の地域資源を活用した持続可能な地域クラブ、生徒が生涯にわたって地域の中で主体的に様々なスポーツ・文化芸術活動を楽しむことができる、この辺りがポイントとなります。

また、推進目標として、令和9年度以降、可能な限り早期に、すべての休日部活動において地域連携か地域移行を実施し、生徒が地域人材等による技術指導を受けられているということを掲げています。

続いて、ページをおめくりいただいて、スライド6を御覧ください。推進計画で示しております内容の中長期的な時間軸で示すものとなっております。令和9年度以降に、まずは休日部活動。そして、令和12年度以降には平日の部活動の移行を目指しています。

スライド7をお願いいたします。こちらは、前回の検討委員会で御説明した内容のサマリーとなります。主に令和7年度の実行方向性をお示したところです。令和7年度は、調布市の実態を踏まえた地域移行のスキームである調布モデルの検討・構築を行っていくこと。また、モデル構築に当たっての仮説や課題の洗い出しのために、トライアル事業を実施していくこと。この2つが大きな取組の柱になります。詳細は「令和7年度の検討体制とこれまでの議論の大枠」のパートで決めさせていただきます。

○事務局（岩田） 続いて、スライド9を御覧ください。国や東京都の動向についてです。

順番が前後して恐縮ですが、まず、東京都の動向です。資料右手になります。令和6年度の実行方向性や、各地区の状況等を踏まえ、令和7年3月に都の推進計画が改訂されましたが、推進目標の期間や各自治体に求められるものが大きく変わったものではないため、新しい説明は割愛させていただきます。

続いて国です。地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議最終取りまとめが5月に示されました。内容としては、昨年12月に示された中間報告の内容から大きく乖離があるものではありません。理念として、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実することが改革の主たる目的です。学校単位で部活動として行われてきたスポーツ・文化芸術活動を、地域全体で関係者が連携して支え、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障すること。地域クラブ活動においては、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出することと示されて

います。本市の推進計画の方向性も、この内容に沿うものになっています。

また、この理念をよりの確に表すため、地域移行という名称は地域展開に変更するとあります。本市においては、現行の推進計画の計画期間が令和8年度までとなるので、そこまでは地域移行という言葉を使用します。次期の計画においては、地域展開という用語に合わせていくことを想定しています。

続いて、資料10を御覧ください。国が示す今後の改革の方向性です。休日については、国が掲げている次期改革期間の令和8年度から令和13年度までに、原則、すべての学校部活動において地域展開の実現を目指すこと。平日については、次期改革期間の前期に当たる令和8年度から令和10年度までの期間において、活動の在り方や課題の検証等を行っていく旨、示されています。本市の推進目標についても、おおむね国が示す枠内に収まっているものと認識しております。

続いて、スライド11を御覧ください。先ほど御紹介した地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議を踏まえ、国のほうで新たに地域クラブ活動の要件及び認定方法、地域クラブ活動に係る費用負担の在り方の議論が始まりました。議事の詳細の公開がこれからのため、現時点の情報はここまですなりますが、本市における制度設計にとっても重要な情報となってくる認識ですので、動向を注視してまいります。

私からは以上になります。

○事務局（吉野） 続いて私から、令和7年度の検討体制と、これまでの議論の大枠について御説明します。スライド13を御覧ください。部活動の地域移行ないし、今は地域展開ということで振り替えられていますが、こちらは論点となるテーマが非常に幅広いことから、令和7年度は様々なテーマの検討を進めるためにワーキンググループの会議を立ち上げて、実務的な調査や情報整理、具体案の作成に取り組んでおります。そして、ワーキンググループでの議論を検討部会でまとめて、こちらの検討委員会において総合的な方針の検討を確認するという体制で進めております。

スライド14を御覧ください。こちらには、ワーキンググループ会議の検討テーマを掲載しております。まずは、こちらの中のグループAの運営体制に関する議論を優先的に行っておりまして、本日は調布モデルの方向性について御報告するものですが、今後、別の検討テーマにおいても取り組んでまいります。

続いて、スライド15を御覧ください。検討委員会の議論の目的と主な内容です。今回の検討委員会では、調布モデルの骨子、方向性ということでイメージを共有させていただき、

今年度末までの中で、本日を含めて計3回、検討委員会を開催しながら具体的なロードマップの整理をしていきたいと考えております。

続いて、スライド16を御覧ください。今年度はここまでに検討部会を2回、ワーキンググループ会議を5回開催し、議論を深めてまいりました。各回の主なテーマと議論の内容を掲載しておりますので、御確認いただきますようお願いいたします。

説明は以上です。

○阿部委員長　　今、これまでの振り返りというような内容になっています。この間、ワーキンググループ等、いろいろ検討してきたもののところまでで、ここからさきはこれからの話ということになります。また、先ほど説明がありましたけれども、今、地域移行ではなくて地域展開という言葉が主流になってきて——主流までいかないですね。地域展開という言葉を使っていますけれども、この計画期間、令和8年度までは、とりあえず地域移行ということで、地域展開という言葉は、それ以降から使うということで今すり合わせをしているということです。御承知おきいただければと思っております。

振り返りの部分でしたけれども、ここまですで何か御質問だとか、確認したいこととか、ございますでしょうか。——大丈夫そうですか。

では、また何かありましたら、このさきの説明の後でも結構ですので、御質問等いただければと思います。

それでは、説明を続けてください。

○事務局（門田）　　指導室、門田です。

私からは、調布市が目指す部活動改革の考え方について御説明をいたします。スライド18をお願いいたします。これまでの説明の中で重複する部分があるかもしれないのですが、改めて御説明をさせていただきます。

スライド上段の図についてですが、全国の部活動の状況と同様に、今後、本市においても少子化等の理由により、部活動は単独では成り立たない状況が想定されています。また、現在の制度のニーズとして、多様な活動を経験したい、そういう思いを持っていることが生徒アンケートからも分かっております。

現在の部活動を持続可能な活動にしていくために、本市における部活動改革としては、国が示すように、地域連携と地域移行の両面から進めてまいります。最終的には、目指す将来像として示しているビジョン、こちらに近づけていきたいと考えております。

スライド下段については、今後のスケジュール感を大まかな形でお示しをしております。

大きく3つのフェーズに分けて計画を進めてまいります。

フェーズ1では令和8年度末まで、フェーズ2では令和9年度から12年度まで、フェーズ3では令和12年度以降の目標について記載しております。具体的には、フェーズ2から休日の部活動、フェーズ3から平日の部活動を可能な限り地域連携・地域移行に取り組んでまいります。

続きまして、調布モデルの方向性と今後の検討課題について御説明をいたします。スライド20をお願いいたします。本市推進計画にのっとりスケジュールと活動イメージとなります。短期の令和8まで、フェーズ1は令和9年度以降の休日部活動の地域クラブ化に向けた準備期間となります。フェーズ2の令和9年度以降は、地域クラブが段階的に立ち上がり、まずは休日の活動が地域クラブに移行されます。

おめくりいただきまして、スライド21をお願いいたします。地域クラブの立ち上げイメージとなります。既存の部活動の種目をベースに地域クラブを立ち上げていくことを想定しております。これは、現状では調布市の子ども数が減少していないため、現状の部活動が存続している状況であるということ。また、調布の子どもたちが今後の部活動に求めるニーズとして、友達や地域の人と一緒に楽しむことができる、そういった声が最も多かったことを踏まえると、いわゆる拠点型のように、別の学校に活動をしに行くのではなく、今の学校で活動に参加できることを重視して地域クラブの立ち上げを検討しております。

スライド22をお願いします。調布市の実態に合った地域移行のスキームである調布モデル、こちらの全体スキームの案となります。このスライドでは、運動系の部活におけるスキームをお示ししております。ポイントとしては3点です。1点目です。調布市スポーツ協会が地域クラブを統括する団体としての役割を担っていくということ。2点目、先ほど御説明をいたしました既存の部活動種目をベースに地域クラブを立ち上げていくということ。3点目です。地域資源との連携です。調布市には、協定締結大学を始め、総合型地域スポーツクラブ、昨年度も連携しているトップスポーツチームなど、多様な地域資源がございます。これらの資源といかに連携を図れるかが調布モデルのスキームが持続可能なモデルになるのかの鍵になると考えております。

続いてのスライドからは、運営の仕組みになります。

○事務局（吉野） それでは、スライド23、運営の仕組みについて、私から御説明します。

ここでは地域クラブ運営の仕組みのイメージということで、先ほどの説明でもございま

したが、地域移行の受け皿となる地域クラブについては、既存の部活動種目をベースとして立ち上げていくことを想定しております。各地域クラブの運営に当たっては、地域クラブ間の運営力の均衡を図り、また、子どもたちの安定的な活動機会を確保するために指導者の募集、登録、研修の実施、生徒の参加登録、受付等会費の徴収。また、指導者への報酬支払い等、保険の手配ですとか、相談窓口対応といった管理業務を総括団体が事務局として一括して担うということを想定しております。

本資料では、地域クラブの運営に関する基本的な構成要素を整理しておりますが、飽くまで現時点でのイメージということでございますので、今後の検討の中でさらなる整理を進めてまいります。

○事務局（石戸谷） スライド24をお願いいたします。調布モデルの方向性と今後の検討課題の調布モデルのスキームの文化部系の活動スキームについて説明いたします。

まず、左上の地域資源でございますが、大学でいいますと桐朋学園大学等がございますので、そういった大学と連携しながら、また、地域人材・団体につきましても、スポーツ団体とまた異なる団体がございますので、各団体と連携しながら、今後、検討を進めていくことになります。

真ん中の統括団体、文化部系につきましては未定と記載してございます。こちら、想定ではございますが、今後、例えば、委託事業者、関係団体。実際に活動団体、学校とか地域で活動に派遣する、例えば、大学などがここに担えるかだとか、学校や地域で活動する団体の状況であったり、学校だったり、地域のニーズを把握して、後に説明しますけれども、トライアル事業を実施しながら、この統括団体については検討を進めていくような状況でございます。

文化部系の説明については以上になります。

○事務局（吉野） 続いて、令和7年度のトライアル事業について御説明します。スライド26を御覧ください。先ほど御説明した調布モデルの方向性を踏まえまして、令和7年度はトライアル事業を中心とした様々な取組の実行と検証・分析を行うことで調布モデルの実証を進めてまいります。現在は準備フェーズということで、トライアル事業の大枠や各ステークホルダーとの調整を進めております。今年度は、主に12月から2月までの3箇月間をトライアル事業の期間と位置付けて取組を実行し、その検証・分析によって課題を抽出・整理することで運営スキームをさらに精査し、次年度以降の取組につなげてまいります。

続いて、スライド27を御覧ください。今年度のトライアル事業は、調布モデルの実証と位置付ける中で、様々な実証テーマを設定いたしました。お時間も限られますので、幾つか御紹介いたします。

まず①ですが、スポーツ協会を運営主体とした地域クラブ運営モデルの検証です。推進計画において運動系部活動はスポーツ協会の統括団体として想定していることから、実際にスポーツ協会がこのトライアル事業を運営するということで、その実効性や課題について検証するものです。

②は、モデル校において全校一括移行方式の実効性と課題抽出です。令和9年度からの本格実施を目指す中で、モデル校を選定し、地域移行時の学校単位での全体設計ですとか、課題の可視化をするものです。なお、学校との調整上、すべての部活動でなくても、一校における多くの部活動を対象に一定期間に一斉に取組を実施することで本テーマの目的はある程度達成できると考えております。

続いて③です。③は地域資源の活用モデルの検証です。令和6年度はF C東京や読売巨人軍と連携して、合同部活動への指導者派遣を実施しましたが、今後、調布の地域資源をどのように有効活用していくか。スキームの中で、どのように位置付けていくかを具体的な取組を実施しつつ、各主体とのパートナーシップをはぐくみながら模索してまいります。

続いて⑤です。⑤は多様なニーズを踏まえた新たな地域クラブ、運営モデルの検証です。競技志向や既存部活動種目にとらわれないニーズの多様化に対応した柔軟なクラブ運営を模索してまいります。

飛びまして⑩です。⑩は教員の兼職・兼業モデルの検証です。地域クラブにおいては、希望があれば教員が地域クラブの指導者として地域クラブにかかわるケースも想定しておりますので、その制度の実効性や課題を検証いたします。

続いて、スライド28を御覧ください。今年度のトライアル事業の実施概要について御説明します。現在、学校を始め、様々なステークホルダーと協議・検討しておりますので、飽くまでも大枠の方向性として整理したものです。幾つか御紹介します。

No.01は、先ほど少し触れましたが、全校一括方式の検証です。こちらは次のページ、スライド29を御覧ください。現在、調布中学校をモデル校として実施する方向で調整しております。12月から2月までの3箇月間のトライアル期間において、休日の部活動を、部活動としてではなく、地域クラブとして運営することを想定しております。具体的には、例えば、現在、部活動を指導している教員が兼職・兼業制度を活用して、地域クラブの指導

者としての位置付けで指導し、生徒たちも、その地域クラブに参加するといった立て付けで考えております。

現在、学校へのヒアリングを実施しながら、実際に実施する部活動の精査を行っておりまして、今後、具体について整理しながら、資料の下段にありますように、9月以降に運用設計や保護者説明会、教員や指導者向けの説明会の実施などを経て12月から実施してまいります。

スライドをお戻りいただきまして、スライド28をまた御覧ください。No.03から05は地域資源の活用モデルの検証として、トップスポーツチームと連携した指導者派遣の取組を検討中です。昨年度はF C東京と読売巨人軍と連携した取組を実施しましたが、今年度はさらに連携団体を拡充する方向で検討しております。

続いてNo.06は、多様なニーズへの対応や多世代交流モデル、大学との連携による学生の人材派遣などのテストとして、昨年度実施したマルチスポーツを、やり方を改善しながら継続する方向で現在検討しております。

概要を御紹介しますので、スライド30を御覧ください。マルチスポーツにつきましては、昨年度、玉川大学教育学部と連携して、生徒の多様なニーズに対応するために既存部活動にない活動として実施しました。結果としてですが、中学生のスケジュールの優先度ですとか、マルチスポーツの認知度などから集客が困難な結果となりました。今年度は、地域への理解促進や参加者へのテーマの訴求度の向上、調布モデルの実証としての検証テーマの深掘りなどを行い、新たな形での実施に向け、準備を進めています。

具体的には、参加対象者を中学生に限定せず、数年後に中学生になる小学校の4年生から6年生をメインターゲットとすることや、実施内容を、気軽に体を動かすことができる居場所づくりを意識したコンテンツとすることを考えております。

それでは、またスライド28にお戻りいただきまして、ここからは文科系のトライアルについて御紹介します。

○事務局（石戸谷） 文科系のトライアルにつきましては、番号でいいますと08から10の内容になっております。

08、09につきましては平日の部活動でございます。文化部の地域資源、文化協会の加盟団体であります囲碁連盟さんと連携し、また、09につきましては、大学連携として桐朋学園大学と連携しまして、今、学生さんを派遣しております。それぞれ平日部活動で、今現在、トライアルを実施しているような状況になっております。

10番につきましては、こちらも土日の部活動の支援という形で、今現在、5回程度を想定しておりますが、今年度の下半期に桐朋学園大学の学生さんを派遣するといった形で、現在、桐朋学園大学と協議を進めております。具体的内容につきましては、パートごとの指導や合奏までできるかというところを、今後、学校のニーズも踏まえながら検討を進めていきたいと考えております。

文化部は以上です。

○事務局（吉野） では、続いてスライド31を御覧ください。ここからさきは、先ほど御紹介したトライアル事業の実施に際し、調布モデルの実証はもとより、地域理解促進につなげる取組や、運営面でのテストなどを具体的に検討しておりますので、その内容について御紹介します。なお、トライアル事業すべてに対して実施するというものではなく、可能な内容を今後精査して実施いたします。

まずステージ1ということで、モデル校における保護者説明会の参加申し込みから開催までの周知・広報及び運営に関するスキームです。トライアル事業はもとより、部活動の地域移行の取組を推進するには、保護者を始めとした地域の理解・促進が重要であると認識しております。現在、この検討委員会での議事録や資料などは、市のホームページで公開しておりますが、より分かりやすい情報発信のために、地域移行に関する市の取組などを集約した専用のポータルサイトの立ち上げを予定しております。このポータルサイトの中で国の方針や市の方針の周知、また、保護者説明会の申し込みなども行ってまいりたいと考えております。

続いて、スライド32を御覧ください。こちらは、ステージ2としてトライアル事業の申し込みに際しても、先ほど御説明したポータルサイトを經由する形で行うことを想定しているというものでございます。

続いて、スライド33です。こちらは、ステージ3として地域クラブ運営スキーム案です。今年度のトライアルの中で、保険の対応ですとか、会場・施設調整、また、事務局としての問い合わせ対応はもとより、クラブ運営のコアとなるスケジュールや出欠管理のためのアプリ運用を検討しております。こうした取組を通して、本格移行が始まる令和9年度を目指し、地域クラブ運営にツールも含めた必要な準備や課題について整理してまいりたいと考えております。

説明は以上です。

4 質疑応答・意見交換

○阿部委員長 事務局からの説明が終わりました。今、説明いただいたのは、スライドの20ページから、まさにということになるわけですし、調布市が目指す部活動改革、調布モデルの方向性と今後の検討課題。また、今年度、トライアル事業ということで最後に説明させていただいたところでもありますけれども、ここまでの内容についてもう少し皆様から御意見と御質問等をいただきたいと思います。昨年は、調布モデルということではやっとしていたのが、だんだん何となく見える化してきたのではないかと感じるところでありますけれども、今回、調布モデルのスキームということで、スライドでいきますと22がスポーツ、24が文化ということで説明がありましたが、まずこの辺のところについて御意見とか、課題などがあれば、御意見いただければと思っているのです。

調布市スポーツ協会が統括団体ということで、ここに示されていますけれども、このスキームの統括をするに当たって、御意見ですとか、課題だとか、何かあれば一言いただければと思うのですが、門脇さん、どうでしょうか。統括団体ということで、課題みたいなもの、今のスキームを見たことで何か感じられることがあれば……。

○門脇委員 スポーツ協会の門脇です。よろしくお願いいたします。

当初の計画段階で、スポーツ協会としての方向性をご提示いただいていたことから、現在、職員体制などについてスポーツ振興課と調整を進めています。ただし、まだ課題が十分に見えていない部分もあります。

現状で強く感じているのは、検討部会やワーキンググループ内で細かな課題はあるものの、最大の課題は指導者の確保です。どの程度確保できるのか、またどれだけご協力いただけるのかが、まだ明確になっていません。現状では、教員の皆様に兼職・兼業という形で残っていただき、さらに部活動指導員や外部指導員の方々にも全面的にご協力いただくことを想定しています。それでも不足する部分については、加盟団体やスポーツボランティアの皆様に協力をお願いする必要があります。また、地域の自治会等の団体など、まだ具体的に見えていない関係者にも協力を依頼することになると考えています。この点が最も大きな課題です。

一方、これまでの作業の中で、スポーツデータバンク株式会社のスタッフとの意見交換を通じて、調布市内で部活動がクラブ化する場合、膨大な作業量が発生することを聞いています。スポーツ協会としては、今年4月に新人職員を迎えたものの、現状では人員が不足していると認識しています。今後、細かな作業が具体化した段階で、必要な人員について

さらに詳細な調整を進めたいと考えています。

以上の状況から、現時点での大きな課題は、指導者の確保と協力体制の構築、そして作業量に対応するための人員体制の整備であると考えています。よろしくお願いいたします。

○阿部委員長 ありがとうございます。

やはり、これだけの事業を動かしていただくと、体制整備が今後も非常に大事になってくると思います。今回、調布モデルのスキームにおいて、地域資源ということで、それぞれ大学ですとか、総合型地域スポーツクラブさんですとか、トップスポーツチーム、いろいろこういった地域資源を活用しながらということで、調布モデルというものを確立しているというような話だと思いますが、その辺、今回、全体のスキームを聞いた中で、調和SHC倶楽部さんどんな御意見とか御感想とかありますでしょうか。

○荏澤委員 地域クラブの中に、子どもと大人と混在して、同じ活動場所、活動時間で行っている剣道とか、そういう大人と子どもの剣道部と、子どもだけの教室というのはマッチング的に入ってくるけれども、参加する本人と活動場所、このクラブの地域移行において、参加させる保護者側からしたら、今までは学校に行って、学校でそのまま部活をして帰ってくる。それを別場所、学校施設にしたとしても、活動が、例えば、1つの学校で成り立たない場合、どこかの学校でするのか。例えば、SHCみたいに体育館？とか、別場所でするとか。ちょっと具体的ですが、ざっくりでもいいのですが、そういうものがないと、これを、例えば保護者側に見せたとしても、このように地域移行しますよといっても、何をどうして参加させればいいのかが見えていないみたいなのところもあるし、子どもたちも、自分の今行っている学校。中学校は3年間しかないの、やりたいものがないかもしれないしとか、あと、今、暑いので、外でするスポーツは厳しいとか、新しい、ここにもちょっとありましたが、アルティメットだとか、ピックルボールだとか、今ちょっとピックルボールが人気なので、中でもできるしみたいなのところで、全体像として、どういう形が見えていないので、説明というのもあるし、クラブとしても、どのようにかかわれるとかが余り見えていないというのが現状です。

○阿部委員長 はい、ありがとうございます。

やはり子どもたちや保護者、地域は、様々な方への周知とか理解をしていただくというためには、やはりもう少し具体的な内容のところに踏み入れていかないと、なかなか理解ができないのかなというところで、この辺は事務局側で何か……。

○事務局（門田） 指導室です。

本当におっしゃるとおりだなと話を聞いておりました。やはりその辺りは今後大きな課題になってくるであろうということは我々も部会の中でも議論しております。調布市の子どもたちにアンケートを取った結果、やはり自分の周りにいる親しい仲間と、要は自分が通っている学校で活動していくことを望んでいるということが分かっていますので、そういった生徒のニーズに沿う形で、活動場所については、中学校のみならず、小学校も含めて学校施設をベースに考えていくことが、子どもたちにとっては一番負担なく参加ができる、そういった取組になるであろうということは今考えております。

参加に当たって、活動面で運営していく中で、例えば、今後、受益者負担という形で持続可能な活動にしていく際に、金額についても、どの辺りが適正なのかといったところも、また今後、国の動向も含めて、我々も検討していかなければいけないというところで、今、議論しているところです。

なので、今後、情報発信といったところで、今、御説明させていただいたような内容はきちんと保護者や地域の方にも御理解いただけるような形で情報発信を今年度以降しっかりとやっていきたいと考えております。

○阿部委員長　そのほか、委員の方、御意見、感想でも構いませんけれども、何かございませんでしょうか。――調布モデルということで、スライド22ページ辺り、調布のお話を聞いて分かったのですけれども、例えば、それ以外でも全然構いませんが、実際にこういった部活動の指導に配慮されている中で、川端委員から何か、今の提案というか、こういった中で何か気になる点とか……。

○川端委員　私自身、七中のサッカー部の指導員をやらせていただいて、今、三中との合同チームを見させていただいています。基本的には土日のどちらかの練習だけしか参加していないので、地域移行になっていくと、そういった方が活躍する機会が増えていくのかなということを、今、この移行の計画を見ながら考えておりました。となると、その人材をどこから持ってくるのか……

今、調布中と五中のサッカー部が……

○　　一緒にですね。

○川端委員　先生がやられているのですかね

○　　教員ですね。

○川端委員　なので、ちょっとタイプが違うのですけれども、調布中さんと五中さんの合同のサッカーチームがあつて、お話を聞いたら教員の方がやられているということですから

が、三中、七中のパターンでいくと、まだお子さんが小さい先生とかがいっぱいいるので、私が出ていく機会が結構増えていく。その辺、人材をどこから確保していくのかというところ。その人材を確保するに当たって、では、だれが面接をして、どのように審査をするのかというところ。あと、やはり指導するに当たって、技術的な問題もそうですけれども、下手に子どもたちにパワハラだとか、言葉の暴力とかということ、サッカーの指導員、コーチの資格、ライセンスを取るときにものすごく言われているのです。そういうところの充実のところもやらないといけないのかなということを考えております。

だから、そこが総合の団体事務所のほうでやられればいいと。これは運動に対してもそうだし、文化的なところに対しても、そういう教育というところも必要なのかと感じておりました。ありがとうございます。

○阿部委員長 ありがとうございます。非常に大切な内容で、指導者の質の問題というのが、これからしっかりと見ていかなきゃいけないところ。その辺について何か事務局のほうでありますか。

○事務局（吉野） 全体のスキーム検討の中で、スライドの23にもお示ししていますけれども、統括団体の事務局としての役割の中で、人材を確保するだけではなくて、その中で研修をしてというところも位置付けをしなければいけないから、それはどういった内容でというところは、今の学校教育でどこまで担保されているかというところもかわってくるので、スポーツ協会だけではなく、教育分野、教育委員会とともに、そういうことはやっていけばいいかというところは考えていく必要があるかと思っております。

○阿部委員長 ありがとうございます。

今、こういった内容で議論を進めているわけですが、今回、大島さんが初めて参加されて、こんな感じで、今、調布モデルについて説明があったのですが、この辺というか、以前から何となく、中学校の部活動というのはどのように変わっていくのだろうなというような認識はありましたか。今日聞いて、ここまで……。

○大島委員 スポーツ推進の会長をしております。前任の清水さん、あと、川端さんもスポーツ推進の幹事をやられているので一応話は聞いていて、今これを聞いて、自分の中ですごく整理をしているのです。初めてこうやって資料をいただいたのであれですが、今、率直に大変だなという認識がありまして、我々推進委員としても何かお手伝いというように……。どういったかわりができるかと今考えています。今、推進委員会としては、小学生と大人というくくりで携わらせていただいているので、我々が推進委員会として部活

動にこういった形で貢献できるのかというところがちょっとまだ見えないというか。我々推進委員会でやっているドッジビーですとか、これから推進を進めていくスポーツ鬼ごっこというものがあるのですけれども、そういったところも我々推進委員が各学校から依頼をされて指導に行くのですが、そういった面でも、小学生に教えるのと中学生に教えるというのを受ける側もやはり違う。この難しさはちょっとあるかなというように率直に感じております。

○阿部委員長 ありがとうございます。

本当に生涯スポーツと言われているところの中では、これまでやはり中学校の部と高校の部、ここだけがすぽっと抜けてしまっていたのです。そこで今度は、高校の部分はこれからどうなっていくのかというのはありますけれども、中学の部分であれば、小学校から引き続き、地域の方にも御協力をお願いして、スポーツを子どもたちに楽しんでもらうというようなところの中で、これを進めて考えなければいけないという中身です。今お話があったみたいに、いろいろな面でまだ、これからどうなってしまうのだろうと思うようなところがあると思いますので、そういった点については、先ほどから事務局が説明をさせていただいていますように、いろいろなトライアルをやりながら、研修をしながら進めていければと思っております。

スポーツもそうですけれども、24ページに、今度は文化の部分が入っています。これはスポーツとまたちょっと違って、文化については、先ほど、事務局からも説明がありましたように、統括団体は未定です。本当にそういったスタイルでいくのかどうかというところと、事務局としても半信半疑で進めているようなところかなということがありまして、その辺について、本日御参加いただいているコミュニティ振興財団の藤堂さんはどんな感想とか御意見をお持ちでしょうか。

○藤堂委員 これまで文化生涯学習課の方とお話をさせていただきましたけれども、まだ文化部がこういった状況にいるのかというところ。それから、果たして休日にどれくらい活動しているか。平日、どれくらいの活動をされているか。スポーツとはまたちょっと違った状況ではないかというところで、こういう統括団体がどういう形でそのようにかかわっていくかというところから、まだ時間かかるかなと思いますので、財団としても今、左側の地域資源の上のほうに名前は入っているのですけれども、違うかかわり方をしているのか、こういったかかわりができるかというのが今後、トライアル等がされていく中で、文化生涯学習課さんと調整していくのかなと。

○阿部委員長　文化のところは、トライアルでそんなにいっぱいやっているわけではないので、これから少しずつやりながら検討を進めていくのかと思いますし、今お話があったように、本当にスポーツと一緒にいいのかというようなところだといいますか、そういう中で意図的に、議論した中では、どういったスキームがいいのか、そうではなくて様々あるのではないかとか、いろいろな意見があるのですか。

○事務局（石戸谷）　今、藤堂委員からもお話があったとおり、やはりスポーツと文化は現時点でボリュームが違うというところがございます。今、委員長からもお話がありましたが、トライアルを重ねる中で、そのような課題。例えば、今、桐朋学園大学さんと連携しようとしていますが、桐朋学園大学さんと、そのこの受ける学校さんとの状況を見ながら、どういうオペレーションが必要になってくるのかとか、そういったところは検証していきたいと思っています。

ワーキンググループに関しましても、文化コミュニティ振興財団の職員さん、同席していますので、随時、財団とか連携を取りながら情報共有していますので、繰り返しになりますが、トライアルの状況を見ながら文化部のことをしっかり考えていきたいと思っています。

以上でございます。

○阿部委員長　ありがとうございます。

今、トライアルということで、先ほど説明のあった26ページ以降のトライアルというところですが、今年度、昨年とは違って、トライアルを実施するというところの中で、先ほどの説明の中で一番注目すべきところは、モデル校を1校決めて、部活動、今回、調布中学校のモデル校ということで検討を進めていったという話がありましたが、これのトライアルというのは多分、今年度の一番大きなものかと思っています。この辺、実際に事務局と調整をしていく中で、本日、モデル校としてやっていただきたいというところで、調布中学校の校長先生も来ていただいているので、梶山先生から見て、今回、トライアルを実施するに当たっての転向といいますか、このようにやったらいいなみたいなどころとか、こういう課題があるのではないかとこういうものがあれば一言いただければと思います。

○梶山委員　一言で大丈夫ですか。

○阿部委員長　はい、助かります。

○梶山委員　トライアルに関しては、教職員のことはもちろんですが、まだ子ど

もたちには話していないですが、不安もあるでしょうが、本物の指導者に会えるとか、やはり学校現場だけだとどうしても指導の専門性のない中で、そこに育っていくよさもありますが、逆に言うと、専門的な技能とか、知識とかを子どもたちに伝えるのはなかなか難しい状況がありますので、すごく楽しみではあると思っています。

また、トライアルの実施に当たっては、各8校の校長とも連携を取りながら共有して、ともに課題等を見つけていければと考えていますので、引き続き御協力いただきながら実施していければと思います。

○阿部委員長 ありがとうございます。

事務局から何か、大丈夫ですか。

○事務局（門田） 今まさに校長先生からもお話をいただきましたけれども、今、調布中学校の部活動の指導に携わっていただいている顧問の先生に直接声を聞くということではアリングをさせていただいております。実際、部活動の指導に当たって、御自身がどうお考えなのかといったところ。負担を感じているのかとか、やりがいを持ってやっているのかとか、現状の悩みや今後どうしていきたいのか。そういったことも、今、移行についてアリングをしているところです。

部活動の指導にかかわっていただいている先生方、様々に背景やバックボーンが違う状況がございます。今、調布中の梶山校長先生にお話をいただいたように、必ずしも専門性がある方が専門の競技の指導ができているかというところ、状況的には違う状況もあったり、学校には教員の異動が付き物ですので、専門性のある先生が異動で別の学校に行ってしまう、代わりに入ってきた先生が全く専門性のない方だったりというような状況も必ず発生してしまうというところで、持続可能な状況に子どもたちの活動をしていくためにどういう取組をしていったほうがいいのかといったところも併せて学校からアリングをしているので、トライアルの中にもぜひそういった声は落とし込んでいきたいと考えています。

○阿部委員長 ありがとうございます。

様々なトライアルを今年度もやるということで今進めているわけですが、一つは調布中学校でのトライアルというところもある。また、マルチスポーツ、昨年もやりましたけれども、若干人数が集まらなかったと。いろいろな事業をやる中で、やはり中学生を集める事業というのは非常に難しいと思っています。中学生は忙しいだろうなと思いつつも、興味があれば来てくれるのかなと思いつつも、なかなか難しいのかなというところで、今年度については参加者の対象に小学生を追加するということですが、この

辺、横山校長先生、どうでしょう。マルチスポーツ参加の小学生の対象を、小学校5年から6年生をターゲットにということでやるつもりだったら、こういうやり方をしたらいいのではないとか、例えば、人を集めたり、どういった募集をやったらいいのではないとか、何かアイデアとかないですか。

○横山委員 アイデアはないですね。端的に言ったら、いいよ、面白そうだから行こうかなみたいなことに賛成です。

若干、別の視点からでもいいですか。

○阿部委員長 はい、どうぞ。

○横山委員 門田先生が説明してくださったスライド18の私たちが目指しているところのスライドですけれども、それを見ながら、コロナが終わって、世の中が随分変わって、何もかも見直しの時代に入っているではないですか。今までどおりやってもしょうがないよねと。何のためにやっているのかとずっと考えていたのです。部活は何のためにやっているのだろうと。そこがまずすごく大事ななと思って。ごめんなさい、釈迦に説法で申し訳ないです。そこは本当に外してはいけない大事なところだなと思ったのと、では、どこに向かっているのかということを見てみると、フェーズ3がありますよね。門田先生が言ってくださった、長期ビジョンですべて地域に任せるのだと。そうなってくると、今現在の中学校の部活というのは、教育活動の一環としてやっているから、部活の指導と学校の生活の全般、勉強も含めて、総合的に子どもたちを成長させているのだろうと思いつつながら、そうなってくると、大人の役割分担でしょうけれども、教育的な側面が随分薄まっていくのだろうと思います。だから、学校がなぜ部活動をやろうとするのだろうと。さっきの話に戻りますけれども、そればかり考えています。

そして、フェーズ3に移行した場合、これは質問ですけれども、学校という枠組みはもはやなくても成立するのかなと思うのですが、この段階ではやはり調布中は調布中。もちろん部活によっては幾つか一緒にやるかもしれないのだけれども、例えば、西部だとか、南部だとかで集めてサッカーをここでやるとか、そのような形になるのかなと思ったりするのですが、いかがですか。

○事務局（門田） 御質問、ありがとうございます。部活動のこれまで築き上げてきたものといったところでいえば、様々な人間関係の醸成であったり、コミュニケーション、多世代がかかわる活動として、人間力を磨いていく活動の中で、成果もあつたり、課題もあつたりといったところで報告はあります。そういった部活動での意義を継承していくよ

うな形で、今、国のほうでも地域クラブを運営していくといったところでは示されているところであります。

地域クラブだからこそできること。また、部活動であるからこそできること。様々整理していくことも必要ですけれども、私たちとしては、基本的に子どもたちの活動の場所をしっかりと確保してあげていくということは大前提になると考えております。

また、御質問いただきました地域クラブ活動を学校の枠を超えてといったところのお話もありました。今後、フェーズ3になって、例えば、10年後、20年後といった長いスパンで考えていったときに、調布市においても、やはり子どもの数が減ってくるということが想定されています。そうなってくれば、一つの地域クラブの中に参加する生徒の数も少なくなってくるのが想定されます。例えば、それは学校間の枠を超えて、一つの地域クラブとして吸収合併といったことも今後は想定されるのではないかとすることは考えています。

ただ、今現在、目の前にいる子どもたちのニーズを基に考えていくと、やはり自分の所属している学校で活動していきたいという思いを多くの生徒が持っていますので、まずはそこに焦点を当てて、今ある既存の部活動を地域クラブ活動に移行して、子どもたちの放課後の活動の場所を安定的に確保していく。そういったところをまず目指していきたいと考えています。

以上です。

○阿部委員長 ありがとうございます。

私も長年、部活動をやりながら育ってきた人間なので、横山先生がおっしゃったようなところというのは私も感じるころはあります。今、門田事務局からもお話があったみたいに、これから子どもの数はどんどん減っていくというところを見据えていかなければいけない。なので、そういった状況がこれまでと大きく変わっていくというところを考えながら、少しずつ進めていく必要性はあるというようには思っているところであります。

また、全体を含めて、皆さん、まだお時間がありますので御意見等があればお伺いしたいのですが、何かございますか。——どうぞ。

○蕨澤委員 調和SHCクラブができるときに、総合体育館と各中学校ということで大型地域スポーツクラブができたらいいみたいな話が当初あったのです。各学校で一般開放等ありますけれども、開放運営していく学校がありますよね。そういうところの活用とか、要するに子どもたちが何をもって中学のときに部活動をしなくてはいけないのか。でも、

生涯スポーツというものがあるし、SHCクラブでいうと、未就学児から90代までの方がいらっしゃるわけです。いろいろな時間に、文化も書道とかワークショップなどでいろいろなことを、子どもたちは、いろいろなポテンシャルもあるし、集中してできる時間を与えると、やはりできることはすごくたくさんあると思うのです。それをどこで拠点にして、だれが教えてということ、この会議でもそうですけれども、だんだんと煮詰まってくると、いいなと思います。いい方向に子どもたちに対して運営ができるようにしていければいいなと思います。

○阿部委員長 ありがとうございます。

これまで様々な意見が出ましたが、阿部委員、どうでしょうか。全体を通して総合的にいただければと思うのですが。

○阿部委員 玉川大の阿部です。よろしくお願いします。

今までの議論ですとか、国、各自治体の取組等を見ていると、やはり指導者の確保、量と質の確保、今すごく問題というか、近々の課題になっているのかと思っています。

スライドの22を見ていただくと、先ほどから地域資源のことでお話がありました。大学との連携ということで、玉川大学もかかわらせていただいているのですが、例えば、桐朋学園大学さんだから音楽とか、体育学部だからスポーツとかではなくて、桐朋学園さんの中でもスポーツの部活をやっている子たちがいるので、そういった視点でとらえてもらおうと大学生はすごく可能性、ポテンシャルがあると思います。というのは、平日の地域移行になった場合に、やはり一般的な社会人の方は平日の3時から5時で行ける方は本当に限られております。そうしたときに、大学生の活躍はすごく、今後考えていかないといけないなというところと、昨年度からマルチスポーツにかかわらせていただいているのですけれども、大学生はだれでもいいというわけではなくて、事前の講習ですとか、自後の振り返りですとか、そういったことも重要になってくるのではないかなと思うのと、調布近隣の大学さんへのアプローチもすごく、ただお願いするだけではなくて、こちらから指導者養成的な講習会というところの質の確保も必要ではないかというところ。

あとは朗報というか、いいニュースだったのですが、先週ちょうど文科省のほうで検討されていたのが学校へ社員を派遣する企業です。そうすると、法人税が減税されるというような検討がされている。まだ検討段階です。といって、調布を見てみると、シダックスさんとか、アフラックさんとか、京王電鉄さんとか、いろいろな企業があるので、ほかに取られる前にぜひ調布市。例えば、調布市に勤めている方も、自分の地元の企業というか、

地元の学校があるわけで、そっちで部活動指導員をやりますと言われる前に、調布市で働いている人にアプローチしていく。4「地域企業」というところの人材が重要ではないかと思います。

あと、調布モデルのところですけども、割と教員の方が兼職で続けるというケースが多い。ほかの自治体に比べても多くなっていて、先生たち、熱心なんだなと。ただ、国の議論の最初、教員の負担軽減ということも一方ではあって、例えば、神戸市は部活を廃止します。「KOBE◆KATSU（コベカツ）」という独自の取組をやりますとあって、それとの因果関係は分からないのですけれども、教育採用試験の倍率が増えたのです。もしかしたら、部活動が負担と考えている人が神戸を受けた可能性もあるというところで、今の先生方は部活を続けてくれるという形で、アンケートでもヒアリングでも答えてくださっているのですが、これから先生になる人たちがどうとらえるかという視点も持続可能という意味では必要ではないかと思っています。やりたい先生はやる。やりたくない先生は自分がかかわる範囲でやる。もしくは、やらないというような選択肢ができる地域クラブ化というか、地域移行・地域連携が必要ではないかと思っています。

以上です。

○阿部委員長 阿部先生、ありがとうございました。

今、阿部先生からありましたように、本当に自治体によって取組等が非常にまちまちな状況がありますので、どれが一番いいのかというところは、正直、その自治体の現状に合わせてみないと分からないというようなこともあろうかと思っています。

そういったこともあり、調布については、先ほどから事務局が説明していただいたように、いろいろなトライアルをやりながら少しずつ進めていくということで、今日、事務局から説明がありましたけれども、令和8年度までにそういった体制をつくって、令和9年度から休日の部活動を切り離すというような比較的少しスパンが、ゆっくりめに見えるかもしれませんが、それくらいのスピード感でやっていったほうが、恐らく、いろいろな方向修正はできるだろうと考えています。

本日は皆さん、本当に様々な御意見、御感想をいただきまして、ありがとうございました。いただいた御意見を参考にしながら、今後またいろいろなところに進めてまいりたいと思っております。

最後に、言い残した、これだけは言っておきたいというようなものは何かございますか。大丈夫ですか。――皆さん、よろしいですか。

(「なし」との声あり)

○阿部委員長　今日は、皆さんで共通認識は少し持てたのかと思っていますので、今後またこういった――資料も分かりやすく作っていただけていつもありがとうございます。こういった資料をしっかりと情報提供しながら、また、先ほどお話があったように、子どもや保護者などにもしっかりと情報提供をしながら進めていけばいいのか？と思いますので、よろしくお願いいたします。

5 その他

○阿部委員長　では、次第の最後になりますけれども、次第の5、その他に移ります。事務局から事務連絡があればお願いをいたします。

○事務局（門田）　資料でお付けしている部活動の地域連携の状況についてというものがございます。両面刷りで、裏面が市立中学校部活動の指導者等の配置状況といったものになっています。昨年度まで出している資料と継続しているところはあるのですが、今年度版に直しているというところと併せて、現状の部活動指導員、外部指導員の内容についても少し触れさせていただいています。また確認も含めてお目通しいただければと思っておりますので、御案内させていただきます。よろしくお願いいたします。

では、事務局から。

○事務局（笹本）　そうしましたら、事務連絡を2点お伝えさせていただきます。

1点目ですが、次回の本検討委員会の開催は令和7年12月を予定しております。日程が決まり次第、御連絡いたしますので、委員の皆様におかれましては、御予定のほど、よろしくお願いいたします。

その際に、トライアル事業などの取組状況を御報告したいと思います。会が近づきましたら開催通知を送付いたしますので、よろしくお願いいたします。

続いて2点目です。本日の議事録を作成の上、市ホームページへ公開を予定しています。公開前に一度、内容の確認を依頼させていただきますので、その際は御協力をお願いいたします。

事務連絡は以上です。

○阿部委員長　ありがとうございました。

済みません、先ほど、門田から、事務局から説明のあった部活動の地域連携の要望ということであります。これは紙で出てしまって大丈夫でしょうか。取扱注意であると。

○事務局（門田） 大丈夫です。

○阿部委員長 取扱注意ではないということで、その辺の現状を書いておりますので、また後ほど御覧いただいて、何か気になる点があれば事務局まで連絡いただければと思います。

6 閉会

○阿部委員長 それでは、本日最後でございます。閉会に当たりまして、生活文化スポーツ部長の徳永からごあいさつを申し上げます。

○徳永副委員長 本日も円滑な議事進行に御協力ありがとうございました。また、委員お一人お一人の貴重な御意見をしっかり受けながら、第6回12月ということになっておりますけれども、そこに向けましては、次は素案というような言葉も出てまいったかと思っております。また、トライアル事業に関しましても、この間、5回のワーキンググループ、検討部会を2回実施してきました。ただ、12月までの間に、いろいろな会議体を含めまして、みんなで議論したものが形になっていくといいなと思っておりますので、皆様、御協力をよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

○阿部委員長 ありがとうございました。

それでは、これにて第5回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を終了させていただきます。本日は本当にお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。